

---

▶第11回パピルス賞に植木雅俊氏ら 公益財団法人関記念財団は11月6日、アカデミズムの外で達成された学問的業績をたたえる「パピルス賞」を、植木雅俊訳『梵漢和対照・現代語訳 維摩経(ゆいまきょう)』(岩波書店)と、トマス・ホップズ著、伊藤宏之・渡部秀和訳『哲学原論／自然法および国家法の原理』(柏書房)に贈った。植木さんは1951年長崎県島原市出身、九州大大学院理学研究科修了。独学で仏教研究に入り、40歳から中村元(はじめ)東大名誉教授(インド哲学)の元で学んだ。2008年には『梵漢和対照・現代語訳 法華経』で第62回毎日出版文化賞を受けている。授賞式で植木さんは「中村先生の『人生に、遅いとか早いとかはない。思いついた時が常にスタート』という言葉に支えられた」と謝辞を述べた。

---